



Title	俳句
Author(s)	古谷, 美津女
Citation	懷徳. 1936, 14, p. 84-85
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88964
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

足音のしして短夜の夢淡し

清瀧神社

くみあげて尊き清水いたゞきぬ

下山

半ば下りて汗ふきぬ皆と掬む水に

村井多喜女

飛鳥文化展を観て

親と居て春の御佛おがむなり

大和樂師寺

二句

この寺の螢見ぬこそ惜しきかな
ふりそゝぐ梅雨ひとゝきのしづけさよ
野のはてと思ふあたりを秋の雲
秋風や人なつかしう山下る

古谷美津女

雲低し春來し色の野の木立

梅の寺下るに會ひけり大霰
アカシャの花かき立てゝ雨となる
藤の豆風にをりく現はれし
苔の花つくばうて見て美しき

藤
塚
紅
果

懷德堂秋季開講 二句

新涼や素讀の聲に力ある
道を聽く人のふえけり秋涼し

生駒山麓

瓦焼く煙の見えて春の雨

藥師寺

春雨の煙れる松や鳥の聲
三井寺の新茶香はし力餅